

IIHF OFFICIATING PROCEDURE MANUAL

THREE OFFICIALS SYSTEM



INTERNATIONAL
ICE HOCKEY
FEDERATION

3人制システム 前書き

3人制システムマニュアルの改訂版へようこそ、このツールボックスとガイドラインは、ゲームオフィシャルや審判コーチとして、レフェリーやラインズパーソンとして働くための最良かつ最も効率的な方法をよりよく理解できるようにするためのものである。

アイスホッケーの国際団体として、世界のどこでどのようなレベルの試合が行われるかにかかわらず、可能な限り同じような試合が行われるよう、競技の重要な要素を統一することを目指している。ゲームオフィシャルのための共通の手順と作業パターンを持つことは、国内プログラムだけでなく、あらゆる国際大会が可能な限り最良の方法で審判されるようにするための重要なステップのひとつである。

IIHF は、この文書を読んだあなたが、3人制システムを理解し、ゲームオフィシャルとして働けるようになることを望んでいる。

- 3人制システムにおける審判の基本的な知識を得る。
- 3人制システムにおける様々な責任分野と任務を明確にする。
- IIHF 審判団内の勤務形態を統一する。

この文書は生きている文書であることに注意してください。私たちは、私たちの手順とゲームオフィシャルの役割を完成させ、発展させるために継続的に取り組んでいます。、したがって、常に最新版のOPMをIIHFのウェブページからダウンロードしておくことが重要です。

私たちは、3人制システムに関する読書と教育、そして今後の試合での同システムの導入が、大いに成功することを祈っています。

Danny Kurmann
Officiating Manager
International Ice Hockey Federation

Joel Hansson
Officiating Development Manager
International Ice Hockey Federation

目次

1	はじめに	3
1.1.	スリーオフィシャルシステムの定義.....	3
1.2.	レフェリー	3
1.3.	ラインズパーソン	3
1.4.	チーム	3
1.5.	実施方法	3
2	レフェリー	4
2.1.	ライン変更 - 流れ	4
2.2.	フェイスオフのレフェリーの位置	4
2.3.	プレー中のポジショニング	6
3	ラインズパーソンズ	14
3.1.	プレー中のポジショニング	14
3.2.	フェイスオフのためのポジショニング	16
3.3.	指定のブルーライン	19
3.4.	指定のフェイスオフ・スポット	21
3.5.	パックを渡す	21
4	スクラム/試合中の手順	22
4.1.	レフェリーの責任	22
4.2.	ラインズパーソンズの責任	22
4.3.	よくある不具合とヒント	22
5	手順と責任	23
5.1.	一般的な手順	23

3人制システム はじめに

1 はじめに

1.1. 3人制システムの定義

3人制システムで活動するゲームオフィシャルズは、最も伝統的なアイスホッケーゲームの審判方法の1つを使用することである。3人制システムは、他の審判システムがベースとしている基本的な手順の多くを概説している。このシステムに精通し、自信を持ったゲームオフィシャルは、他のどのような審判システムでも成功する良い機会を得ることができる。3人制システムは、3人のゲームオフィシャルから構成される。レフェリー1人とラインズパーソン2人に分かれる。チームワークが成功の鍵であり、手順を知ることが仕事を成し遂げる助けとなる。

1.2. レフェリー

このシステムでは、レフェリーにとって3オフィシャル制で最も重要なのは、氷上の2人のラインズマンの連携である。レフェリーという立場は、一人のレフェリーに大きな責任を負わせる孤独な仕事であることもあるが、ライン担当者のサポートがあれば、困難な状況も簡単に乗り越えられる。レフェリーは、起きている状況を完璧な角度で見るために必要な機動力を持ち、同時に氷上でできるだけ広くカバーできなければならない。そのため、レフェリーの試合勘、「ホッケーIQ」、そしてどこで起こりうる状況を読み取る能力に高い要求が課される。

1.3. ラインズパーソン

ライン担当者は、プレー中、氷面全体でプレーヤーを適切にコントロールし、同時に自分の責任範囲をカバーすることが最も重要な優先事項である。優秀なラインズパーソンは、プレー中も中断中もレフェリーをサポートすることができる。そのためには、ゲームを読み、適切に対応する審判の「ホッケーIQ」が強く求められる。ラインズマンの主な責任は、レフェリーをサポートする前に、オフサイドとアイシングに関する手順と決定を監視することである。

1.4. TERMS

レフェリー=ペナルティを採ることやゴールを宣告する主審のこと。

ラインズパーソン =ラインの担当者1(L1)と担当者2(L2)に分けられる。

L1は、オフサイドと、積極的なアイシング中のパックに向かう「レース」の判定を担当し、また、プレーやパックの周囲の近いエリアでレフェリーをサポートする。L2は、センターラインを監視し、アイシングコールの可能性をチェックし、L1のオフサイド判定をサポートし、メインエリア外でのプレーヤーのコントロールをサポートする。

切り離された状態=試合関係者がメインのフォーカスエリアに良いアングルで入れない位置にいる。

1.5. 実施方法

アイスホッケーは最初から最後までチームスポーツである。氷上にいる3人のオフィシャル全員がそれぞれの責任を持ち、最善の方法でゲームを行うことが重要である。このマニュアルを公式競技規則と組み合わせて実施する際には、ゲームオフィシャルがHockey IQを最大限に活用し、ゲームに対する感覚を最善の方法で活用することが不可欠である。

3人制システム レフェリー

2 レフェリー

2.1. ライン変更 - 流れ

ラインチェンジを行う際にレフェリーにとって最も重要なことは、両チームと良好なコンタクトとコミュニケーションが取れるよう、明確でオープンなポジションを取ることである。ラインチェンジを行う場合、審判の基本的な位置は、次のフェイスオフがどこで行われるかによって決まる。

- **センターアイスでのフェイスオフ:** ラインチェンジはセンターアイスで行われ、ベンチとの接触を保つため、選手ベンチに向かって約1メートルの位置で行われる。
- **ニュートラルゾーンでのフェイスオフ:** レフェリーは、フェイスオフが行われているフェイスオフドットの反対側に位置し、ニュートラルゾーンのフェイスオフドットとエンドゾーンのフェイスオフドットの間 の位置でラインチェンジの手続きを行う。この位置は、ライン変更手順が完了した後に使用されるスタート位置に近い。
- **エンドゾーンでのフェイスオフ:** レフェリーは、フェイスオフが行われるエンドゾーンのドットの面とは反対側のサークルの上部に位置する。処置が終了した後、レフェリーは、アクティブなスケータリングで、エンドゾーンにおけるフェイスオフのためのベースオブオペレーション位置に戻る。

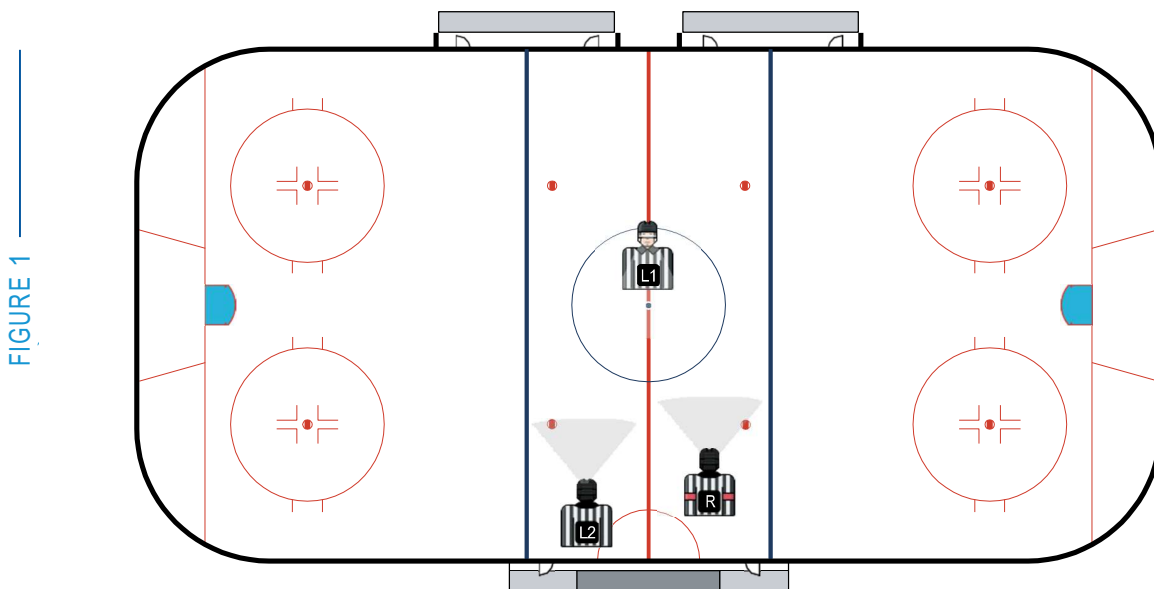
選手全員のラインチェンジの中、ラインパーソンはプレーヤーのコントロールがうまくいくように細心の注意を払い、同時に次のフェイスオフを行うために正しいポジションでスピードを持って行動する必要がある。

2.2. フェイスオフのレフェリーの位置

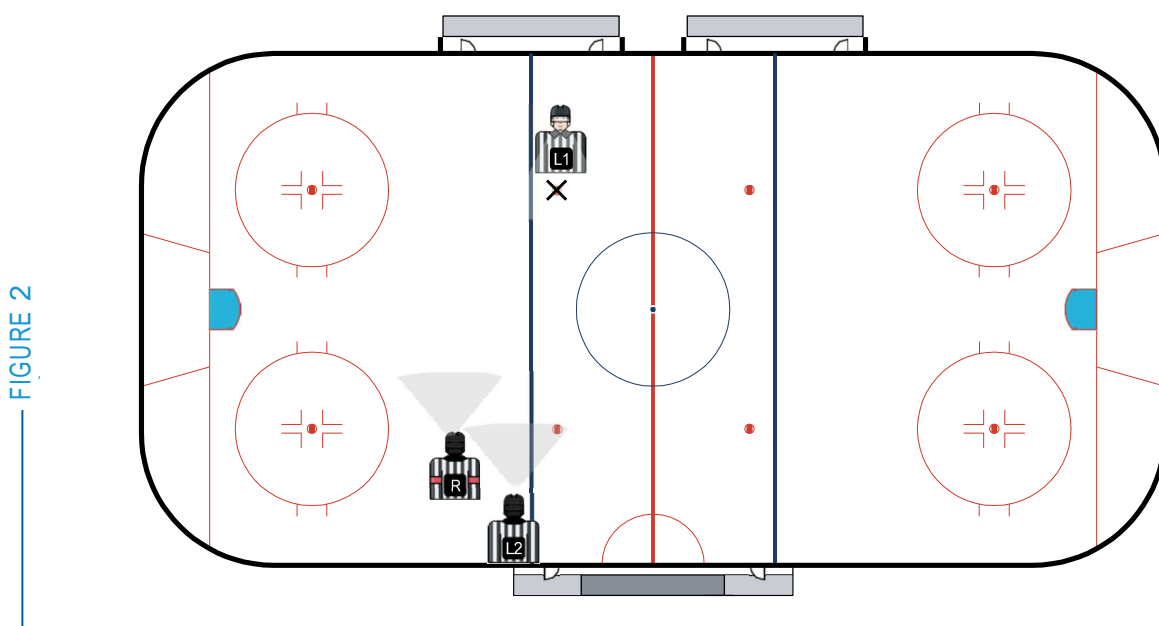


3人制システム レフェリー

ニュートラルゾーンのセンターアイス・フェイスオフスポットでのフェイスオフの場合、レフェリーはボードから約3メートル、ラインズマンの視界を妨げないようにレッドラインの左右から1.5メートル離れたスコアキーパーズベンチの側に位置すること。こうすることで、プレーを最もよく見ることができ、レフェリーはプレーを追いながら、左右に素早く動くことができる。(Figure 1)



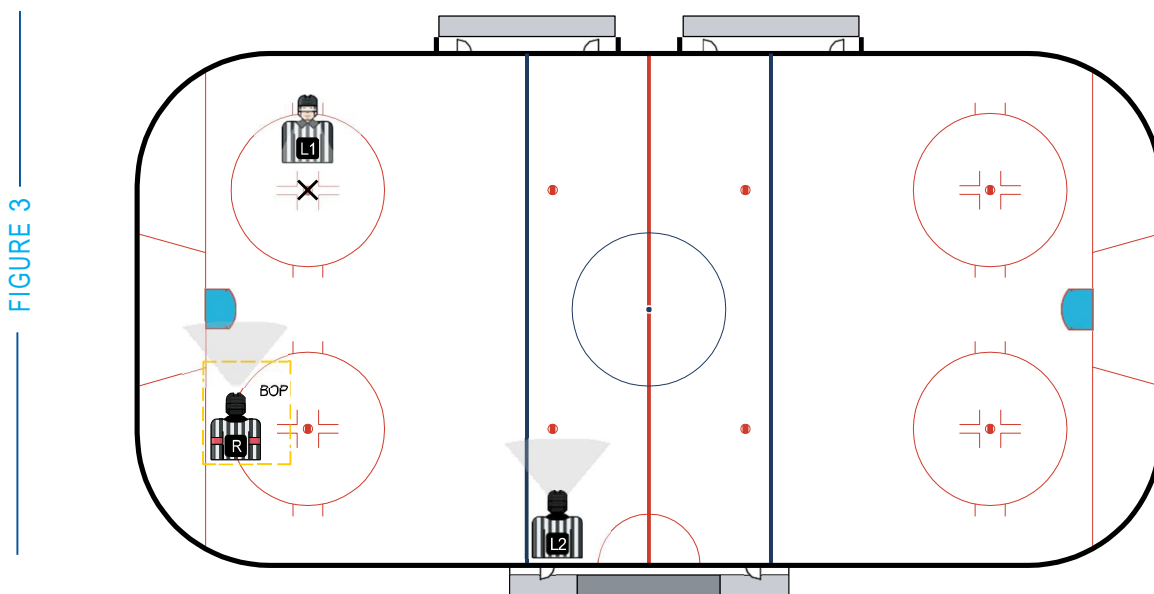
ニュートラルゾーンの4つのスポットのいずれかでのフェイスオフの場合、レフェリーは氷の反対側に位置しなければならない。ブルーラインから約1.5メートル内側、ボードから1.5～3メートル外側。この位置からなら、プレーが直接エンドゾーンに入る場合、レフェリーは素早くそのプレーを追いかけ、「エンドゾーンでのポジショニング」を実行することができる。しかし、プレーが氷上に出た場合、レフェリーはボードから十分離れた位置にいるため、ラインマンとの衝突を避けることができる。(Figure 2)



3人制システム レフェリー

エンドゾーンのフェイスオフスポットでフェイスオフが行われる場合、レフェリーは「ベース・オブ・オペレーション」ポジション(BOP)にいるべきである。(Figure 3) この位置からレフェリーはネット際のプレーに備え、ゴールラインを見渡せる。また、ネットを狙った素早いシュートもレフェリーは邪魔にならない。レフェリーはゴールライン後方やコーナー付近を避けるべきである。これらの区域に入った場合、レフェリーはプレーヤーの混雑により機動力を失い、ネットに遮られ、プレーがゾーンから素早く抜け出した場合にプレーから遅れすぎる。

センターおよびチームが1回目のフェイスオフ違反で警告を受けた場合、レフェリーはフェイスオフの時点と同じ側に移動しない。レフェリーは、違反したチームに対し、2回目の違反があればペナルティが課されることを警告すべきである。フェイスオフを行うラインズパーソンは、レフェリーが警告を発する時間を与え、再び適切な位置に戻るべきである。

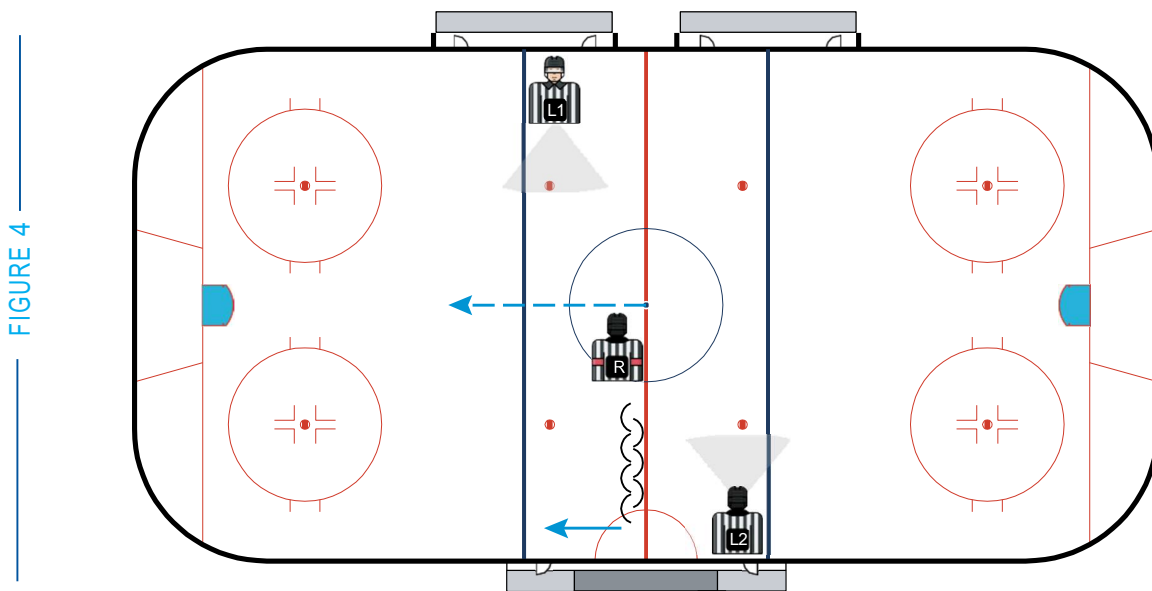


2.3. プレー中のポジショニング

レフェリーは、氷上のあらゆる場所での反則に対してペナルティをコールする責任がある。オフサイドやアイシングはラインズパーソンの責任であるため、レフェリーはコールしないが、ラインズパーソンがブロックされたり、体勢を崩したりしたためにコールを見逃したことが明らかな場合、レフェリーはプレーを止めることができる。このようなコールは例外的なものである。

センターアイスでフェイスオフを行った後、レフェリーはできるだけ早くボードの方に戻ることを肝要である。レフェリーが氷の中央にいる間、氷の一部と選手の何人かはレフェリーの後ろにいる。良いポジショニングとは、すべてのプレーヤーを自分の前にキープすることである。(Figure 4).

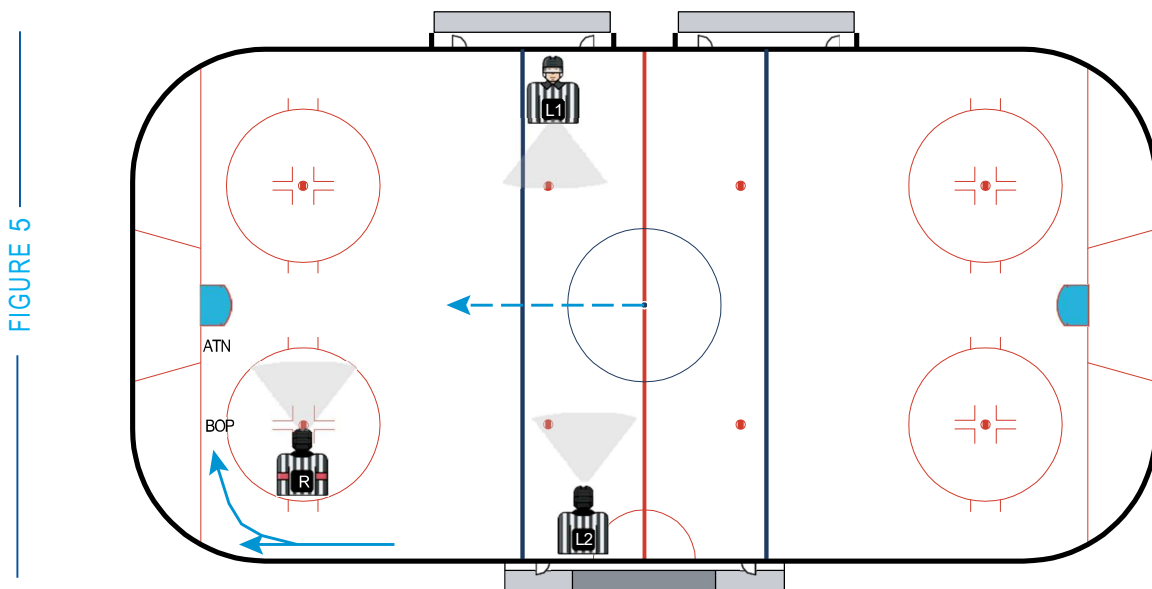
3人制システム レフェリー



パックがセンターアイスに残っていてレフェリーの前にある場合、レフェリーはレッドラインに沿ってボードまで後方に滑ること。常識的に考えて、パックがレフェリーの後ろにあるとき、レフェリーはボードまで滑らない。したがって、パックがレフェリーの後ろに行った場合、レフェリーはピボットして振り向き、レッドラインに沿ってパックと反対方向にボードまで後方に滑るべきである。パックがエンドゾーンに入った場合、レフェリーはそのプレーに従い、エンドボードとサイドボードに向かって角度をつけなければならない。プレーがエンドゾーンの奥深くまで進んだ場合、レフェリーはこのセクションで前述した「エンドゾーンの位置取り」を行うべきである。(see in Figure 5) そうでなければ、レフェリーは適切な距離でプレーに従うべきである。

注: 経験豊かなレフェリーは、ネットの後方でよりよい位置を確保し、プレーから離れるために、ネットの後方を横切ることが許される。これは例外的な状況でのみ使用され、プレーが指示し、安全である場合にのみ行われなければならない。

3人制システム レフェリー



エンドゾーンのポジショニングを良くすることで、すべての異なる審判システムにおいて、レフェリーはプレー全体を見渡しやすくなり、ゴールとゴールラインを見渡しやすくなり、ファストブレイクでプレーの後方に捕まるリスクが減り、不必要なハードスケーティングを減らすことができる。この文書に記載されている概略的な領域は、ポジショニングの基本的な領域であり、不必要な行為に対する抑止力として機能する。エンドゾーンでのプレーで注意すべき重要な点は、必要なときにできるだけ頻繁にネットに立つこと、プレーから離れず、すべてのプレーヤーを視界に収めておくこと、氷の真ん中に背を向けないことである。

3つのポジションとは:

- ベース・オブ・オペレーション (BOP)

ベース・オブ・オペレーションとは、ゴールラインとフェイスオフサークルの間、及びアット・ザ・ボードの位置と最も近いゴールポストの間に位置する区域をいう。レフェリーの目的は、プレーがエンドゾーンにあるとき、できるだけベース・オブ・オペレーションズの位置にいることである。

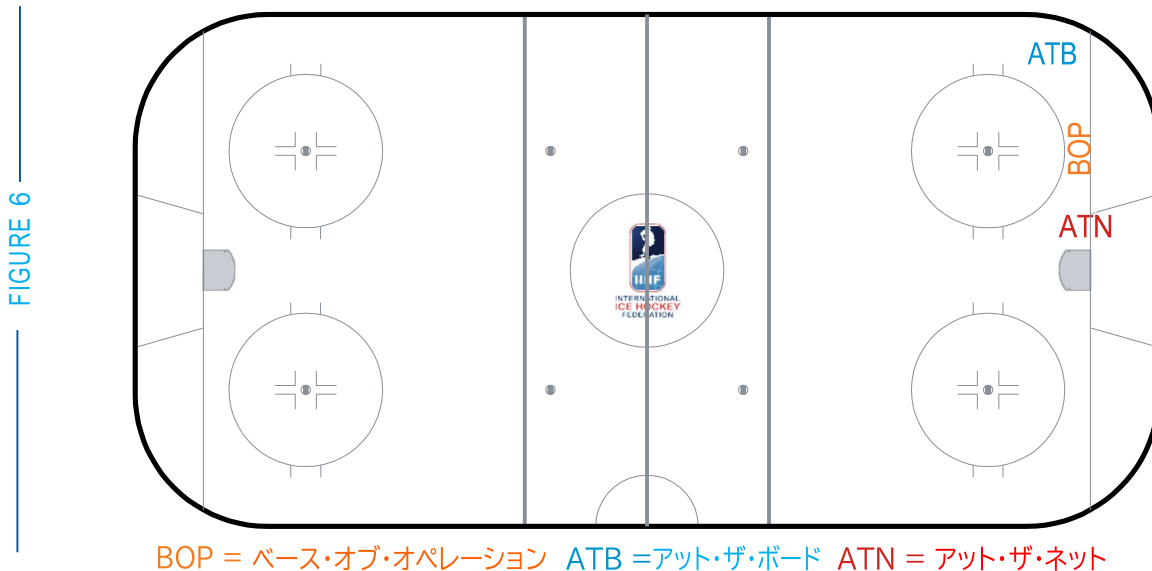
- アット・ザ・ボードの位置(ATB)

アット・ザ・ボードとは、ボードから15~20センチメートル離れた、ゴールラインとフェイスオフサークルのハッシュマークの中間の位置である。

- アット・ザ・ネットの位置 (ATN)

アット・ザ・ネットとは、バックがラインを越えたかどうかを確認するために、レフェリーが最もよく見ることができるネット周辺の任意の位置のことであるが、理想的にはゴールラインから0.6~1メートルのネットの角の位置である。これにより、ゴールラインとゴールクリアーズ付近の動きを見るのに最も適した位置となる。(see in Figure 6)

3人制システム レフェリー



良いポジショニングを保つために、レフェリーには2つの重要な操作がある：

• ザ・バンプ

バンプは、プレーがボードを回り、アット・ザ・ボードの位置に立っているレフェリーの方向に来るときに使用する。レフェリーは、ハッシュマークまたはゴールラインのいずれかに到達するまで、プレーから離れるように(ボードを上下に)バンプする。。

• ザ・ピボット

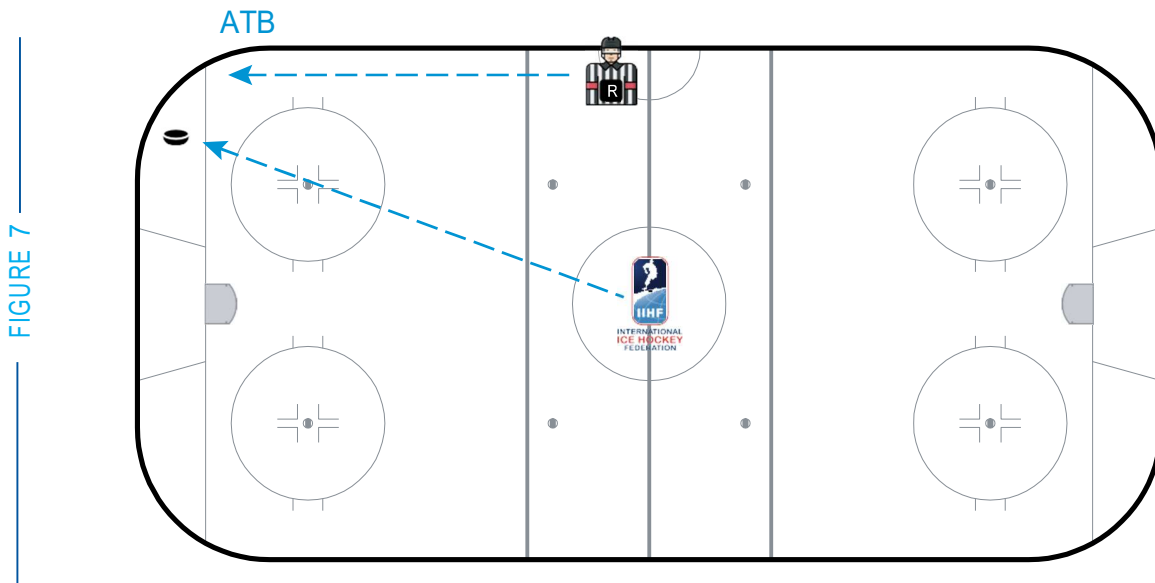
ザ・ピボットは、ボードから一步離れ、ボードの下を横切り、レフェリーの後方でプレーが通過した後、アット・ザ・ボードの位置まで後方にスケータリングする。この時点で、レフェリーはプレーを氷上で追うことも、エンドゾーンでプレーが続くのを見守ることもできる。

注：経験豊富な審判の場合、ネットの後方でのクロスオーバーは、アット・ザ・ネットでより良い位置を取り、プレーから離れるために許される。

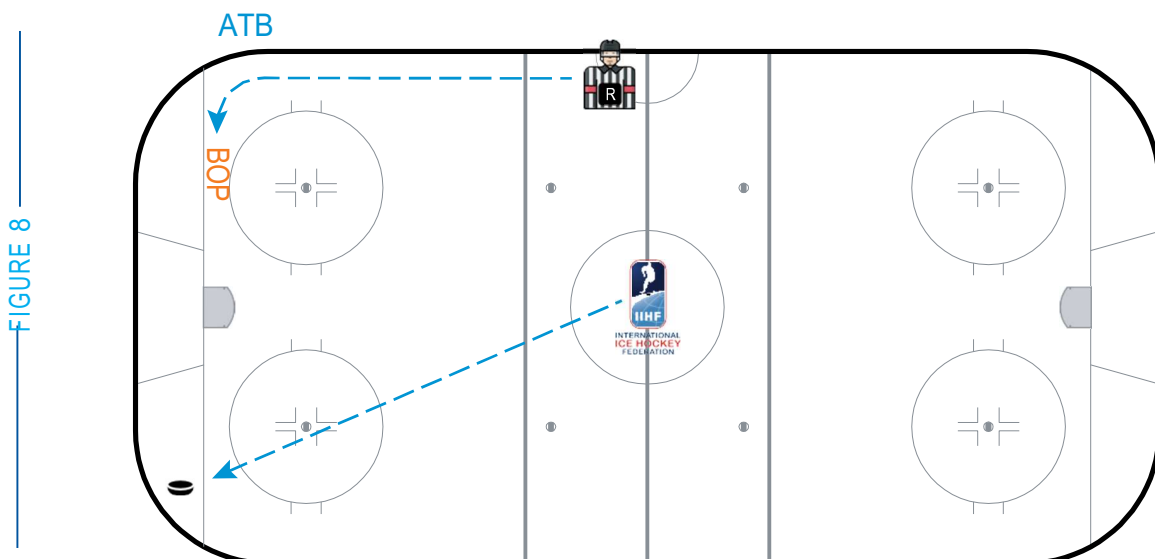
プレーが進行し、レフェリー側のエンドゾーンに入った場合、レフェリーはボードに沿ってアット・ザ・ボードの位置に向かってゾーンに入る。パックが氷の同じ側に残っている場合、レフェリーはアット・ザ・ボードの位置またはその近くにとどまる。(see in Figure 7) プレーによって別のポジションを取らなければならないまで。

氷上を滑走するレフェリーは、青色区域のみにいること。赤のエリアはレフェリーが使用してはならない。また、プレーの進行中に氷の片側から反対側へ「クロスオーバー」してはならない。(Figure 6)レフェリーは、フェイスオフの場所によって、プレーの停止時に移動することができる。

3人制システム レフェリー



パックがレフェリーの反対側でゾーンに入った場合、レフェリーはボードに沿ってゾーンに入り、アット・ザ・ボードのポジションからベース・オブ・オペレーションポジションに進む。(Figure 7) ベース・オブ・オペレーションズのポジションにいるとき、ファーコーナーのパックの視界がネットに遮られる場合は、フェイスオフスポットに一步近づき、視野角を広げることが望ましい。これは、ノーマンズランドに入ることなく行うことができる。(Figure 8)



3人制システム レフェリー

良いポジショニングを保つために、レフェリーには2つの重要な操作がある。

・ ザ・バンプ

ザ・バンプは、プレーがボードを回り、アット・ザ・ボードの位置に立っているレフェリーの方向に来るときに使用する。レフェリーは、ハッシュマークまたはゴールラインのいずれかに到達するまで、プレーから離れるように(ボードの上下を問わず)バンプする。

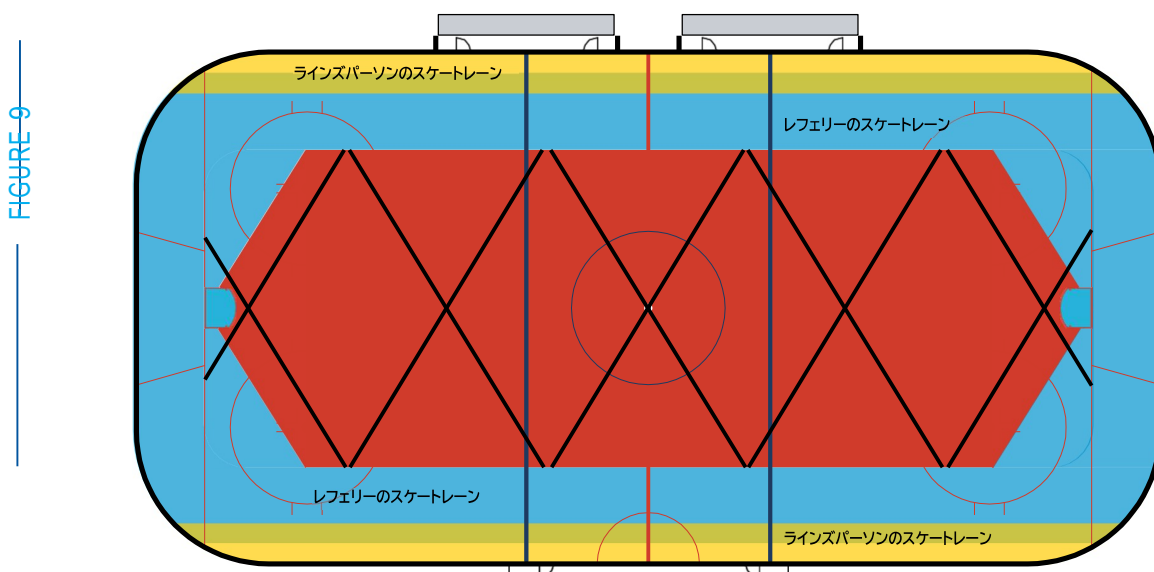
・ ザ・ピボット

ザ・ピボットは、ボードから一步離れ、ボードの下を横切り、レフェリーの後方でプレーが通過した後、アット・ザ・ボードの位置まで後方にスケータリングする。この時点で、レフェリーはプレーを氷上で追うことも、エンドゾーンでプレーが続くのを見守ることもできる。

注: 経験豊富な審判の場合、ネットの後方でのクロスオーバーは、アット・ザ・ネットでより良い位置を取り、プレーから離れるために許される。

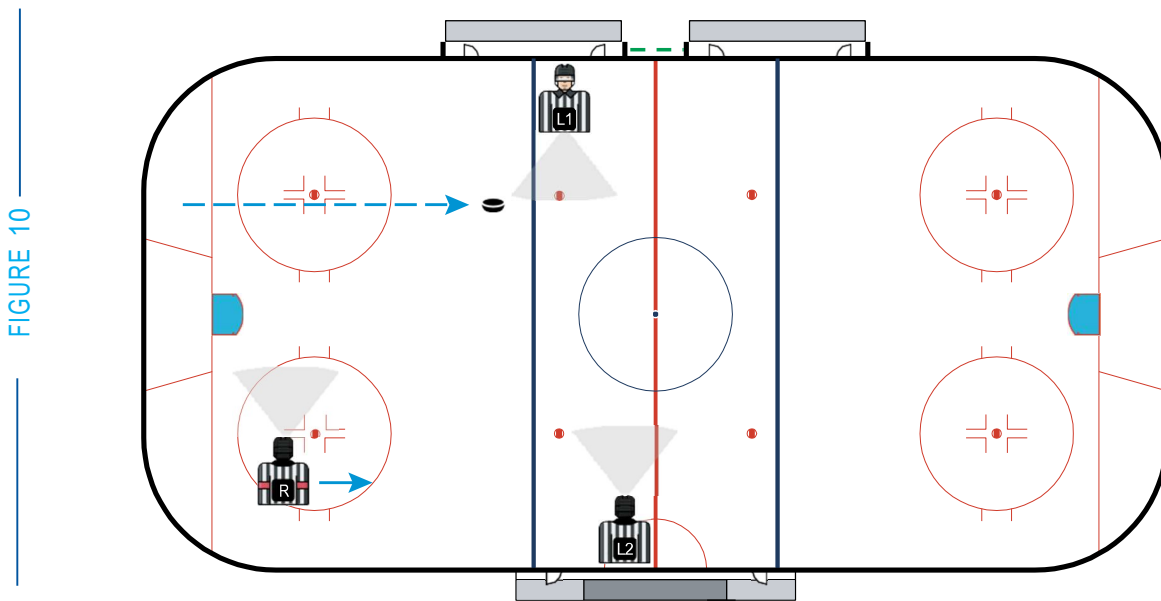
プレーが進行中で、レフェリー側のエンドゾーンに入った場合、レフェリーはボードに沿ってアット・ザ・ボードの位置に向かってゾーンに入る。バックが氷の同じ側に残っている場合、レフェリーはアット・ザ・ボードの位置またはその近くにとどまる。(Figure 8)プレーによって別のポジションを取るようになるまで。

氷上を滑走するレフェリーは、青色区域のみにいること。赤のエリアはレフェリーが使用してはならない。また、プレーの進行中に氷の片側から反対側へ「クロスオーバー」してはならない。(Figure 9)レフェリーは、フェイスオフの場所によって、プレーの停止時に移動することができる。

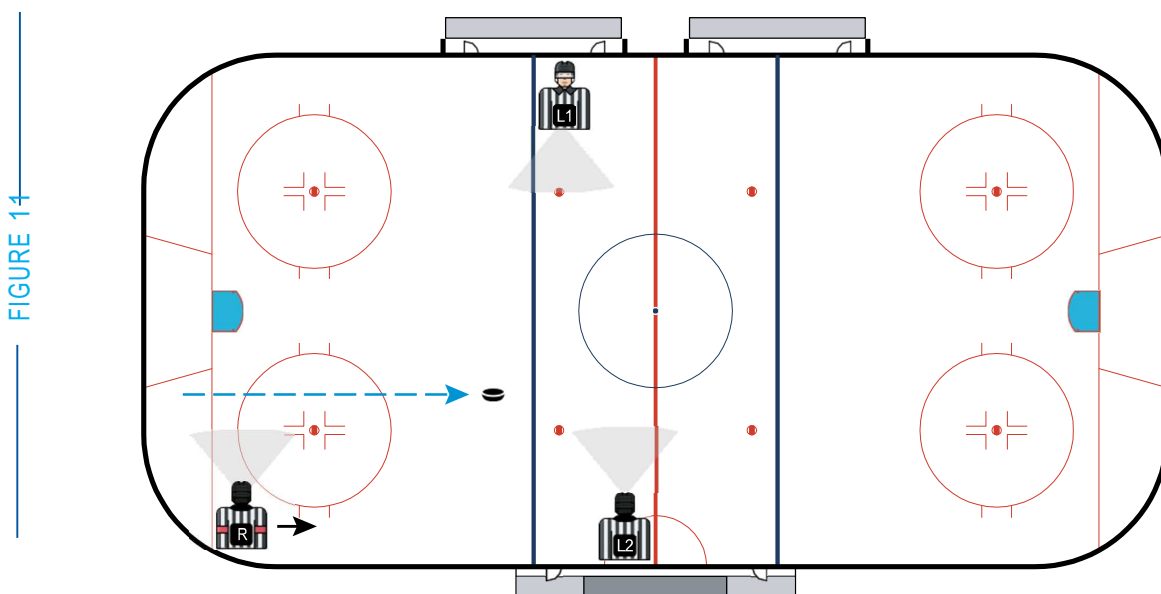


3人制システム レフェリー

ディフェンディングチームがパックを獲得した場合、レフェリーはそのプレーとともにエンドゾーンから出る準備をしなければならない。パックが氷の反対側にあるとき、レフェリーは、ボードから2~4メートル、プレーの6~8メートル後方にいるべきである。
(Figure 10)



パックが氷の同じ側にある場合、審判はボードから1~1.5メートル離れ、プレーの後方8~10メートルに付くべきである。
(Figure 11)



3人制システム レフェリー

プレーから適切な距離を保つことで、レフェリーはすべてのプレーヤーを見渡すことができる。また、パックが突然ポジションを変え、プレーが逆方向に始まった場合でも、レフェリーはプレーの邪魔にならない十分なスペースを確保することができる。

パックが氷の同じ側にある場合、審判はボードの近くに留まり、次のことを確認しなければならない。

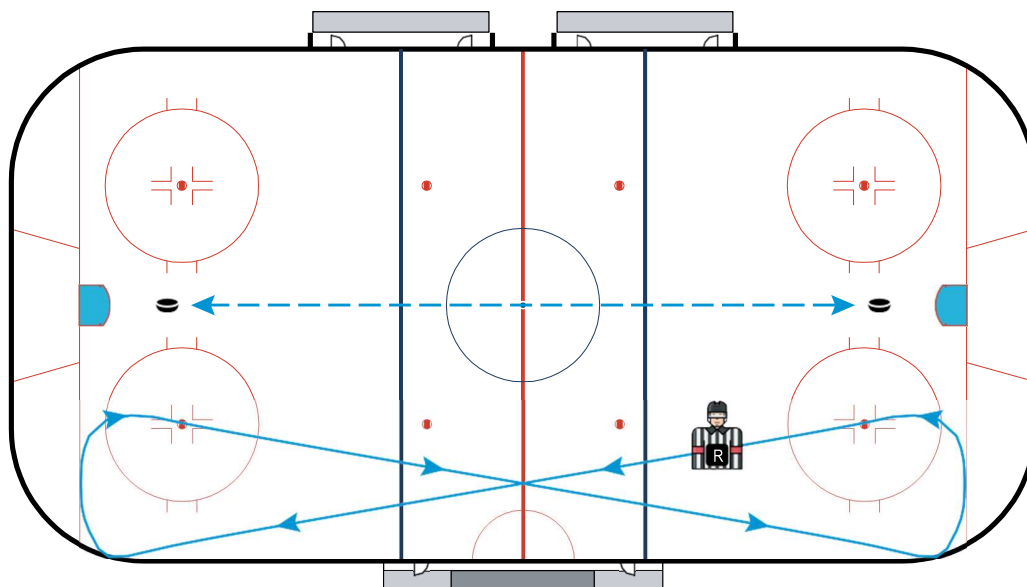
- レフェリーの後ろにつく選手はいない、
- レフェリーはプレーを妨害しない、
- 接触が避けられない場合、プレーヤーにヒットされるのを防ぐ(オープンアイスでヒットされるより安全)。

よくある不具合とヒント

レフェリーにありがちなミスは、相手選手が後方にぐずっている場合、プレーを追ってアタッキングゾーンから動かないことである。その代わりに、レフェリーはプレーを追いかけて、何度か後ろを振り返り、ラインズパーソンがその選手とコミュニケーションを取り、何か問題が起きたら知らせてくれるよう頼るべきである。ストップ&スタートの回数を減らし、プレー中に優れたポジションを維持するために、タイトターンを使って「8の字」パターンのポジショニングを維持するようにしよう。(Figure 12)

多くのいさかいはネット周辺で起こる。プレーが止まったら、レフェリーはネットから3メートル以内の位置に移動するが、全選手と両ベンチがよく見えるようにする。あなたの存在と言葉によるコミュニケーションは、いかなる行為も抑止し、口論やベンチを離れる選手たちをよく見ることができる。

FIGURE 12



フェイスオフのほとんどはラインズパーソンが行う。プレーが停止したら、2人のラインズパーソンは、氷上のプレーヤーを最優先で監視すること。もし2人のプレーヤーが立ち話をしていて、お互いに挑み合っているようなら、重大なトラブルが起こる前に、素早く中に入り、プレーヤーを引き離すべきである。トラブルの可能性がなければ、ラインズパーソンはラインチェンジの手順とその後のフェイスオフのサポートを続行すべきである。

3人制システム ラインズパーソン

3 ラインズパーソンズ

3.1. プレー中のポジショニング

- 彼らは常にプレーをコールできる位置にいるべきである。
- 自陣のブルーライン(またはブルーラインのやや内側)に位置し、ラインを遮るものがないベストポジションを確立する。これは、パックがラインを越えるときに「ワーキング・ザ・ライン」と呼ばれる。
- ラインをまたいだり、飛び上がった、ボードの上に座ったりして危険な体勢をとってはならない。

ラインズパーソンは青いラインから、中央の赤いラインともう一方の青いラインのほぼ中間の位置まで移動する (Figure 13)

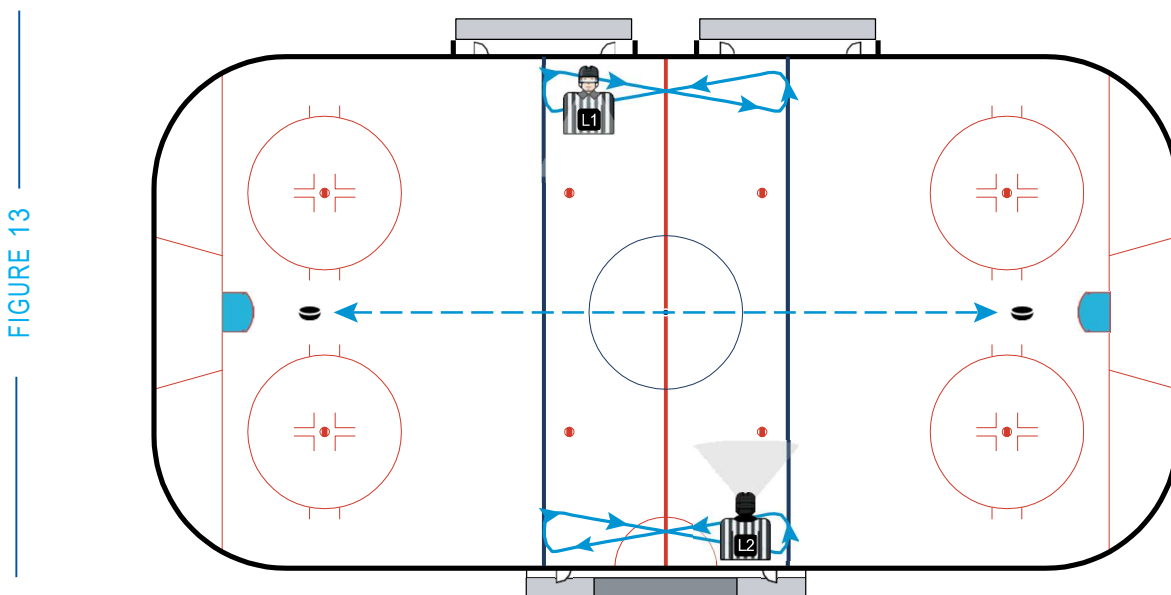


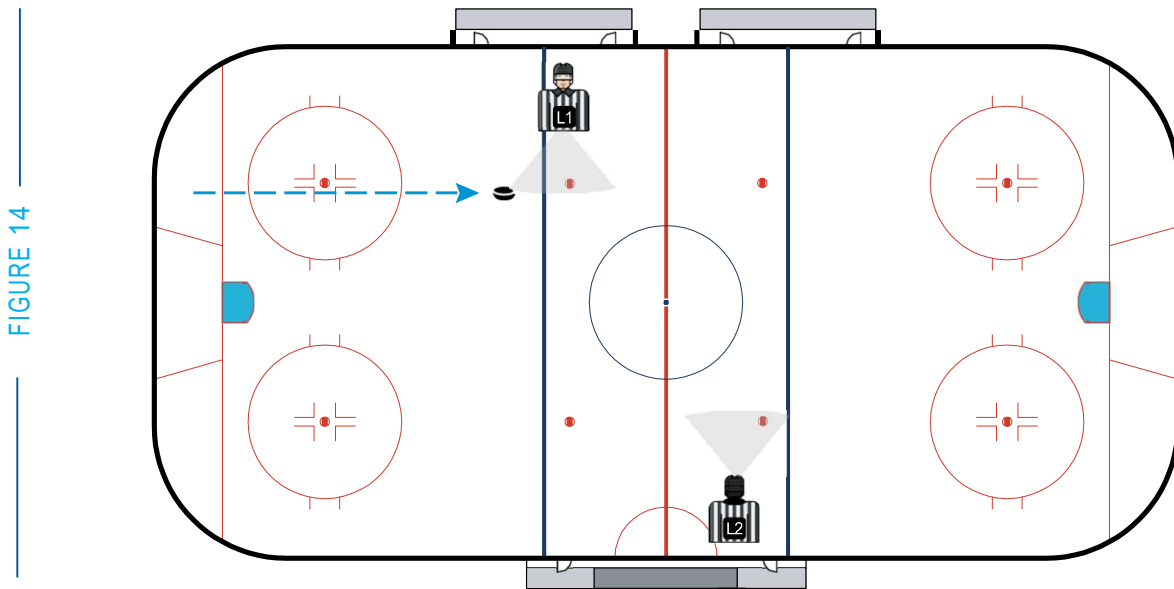
FIGURE 13

バックラインズパーソンは、ファストブレイクやロングパスの状況に備えてブルーラインをカバーするため、常にオフェンス側の最深部のプレーヤーと同じ高さに位置しなければならない。

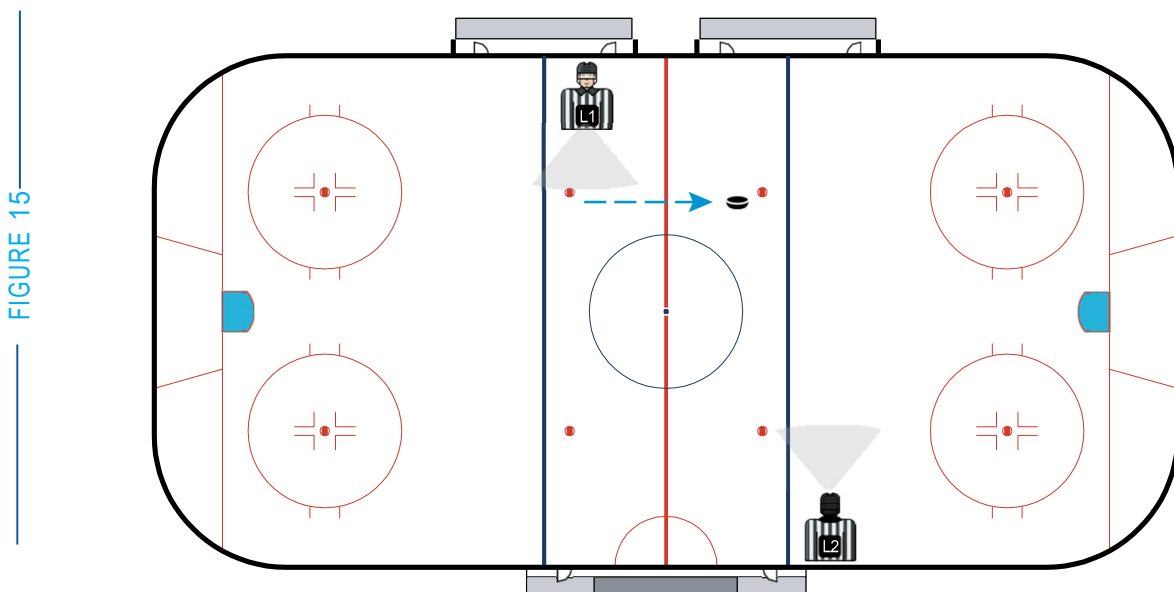
プレーがエンドゾーンにあるとき、フロントラインズパーソン(L1)は、ブルーラインの1歩外側に位置し、体を45度の角度にしてエンドゾーン全体を見渡せるようにし、もう1人のラインズパーソン(L2)はこのブルーラインと氷の反対側の中央のレッドラインの中間に位置すること。(Figure 14)

3人制システム ラインズパーソン

防御側のチームが自陣のエンドゾーンでパックを獲得したら、L2 はエンドゾーンから出てくるプレーを予測し、赤線まで戻るべきである。これらの位置では、L1とL2は両方の青線をカバーしている。(Figure 14)



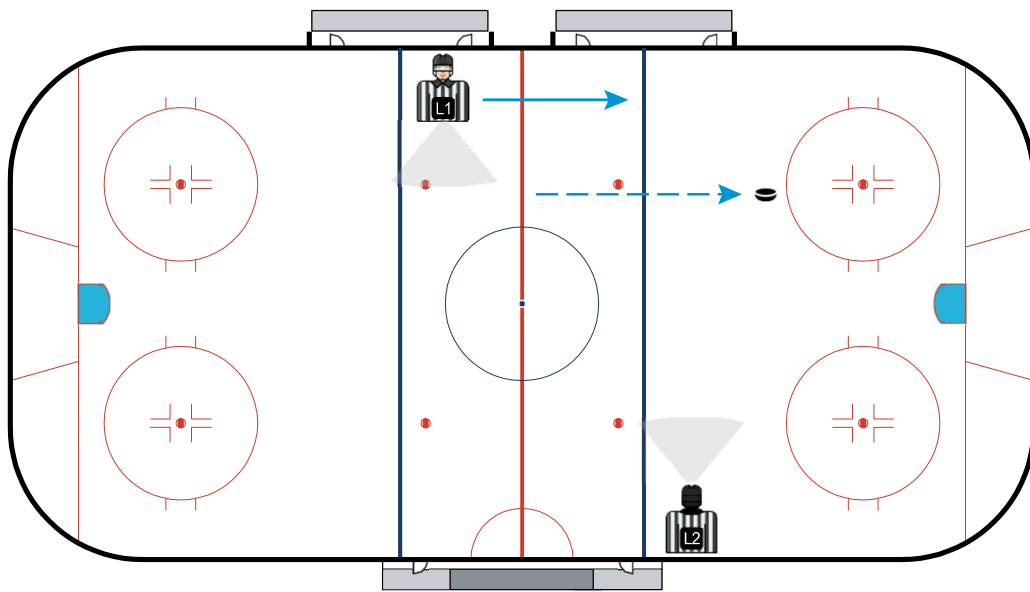
ラインズパーソン(L1)は、プレーがエンドゾーンを離れるとき、プレーの後方で攻撃しているプレイヤーを観察し、プレーの方向が変わった場合にコールを出すのに間に合うようにブルーラインに戻るべきである。パックがブルーラインを越えた後、L2はアタッキングブルーラインに移動し、そのライン上でオフサイドの可能性をコールする位置につく。(Figure 15)



3人制システム ラインズパーソン

パックが青線に近づいたら、L2 は線上にいないけず、L1 は中央の赤線と青線の間位置まで上がらなければならない。ブルーラインでのオフサイドの可能性のあるプレーでは、両ラインズパーソンは常に自陣のブルーラインにいて、パック前に正しい位置にいるべきである。(Figure 16) パックがエンドゾーンから出てきたら、ポジショニングの手順は逆になる。

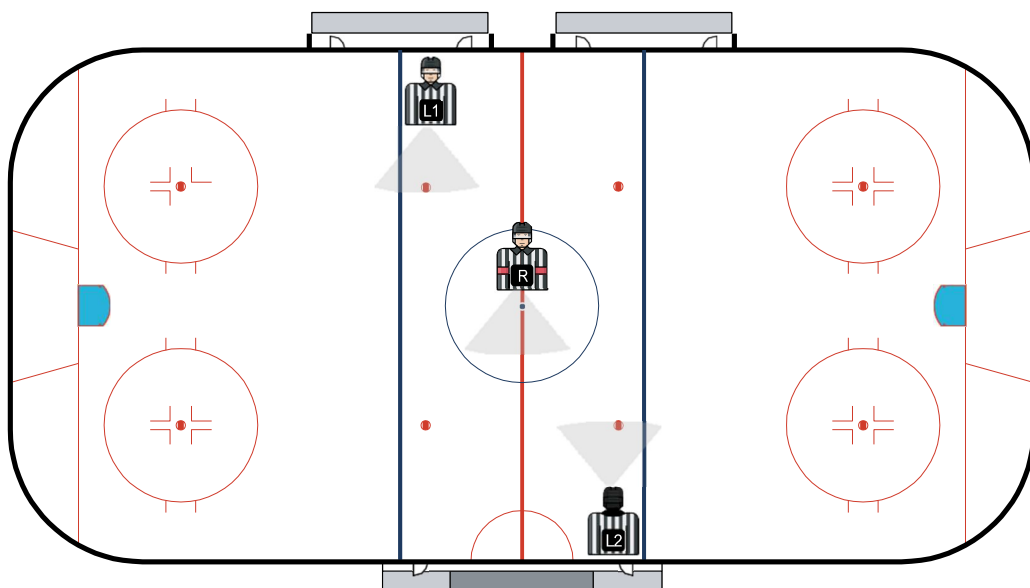
FIGURE 16



3.2. フェイスオフのためのポジショニング

レフェリーがセンターアイスでフェイスオフを行う場合、2人のラインズマンはサイドボードを背にして氷の反対側、ブルーラインのすぐ外側にいないけずなければならない。(Figure 17)

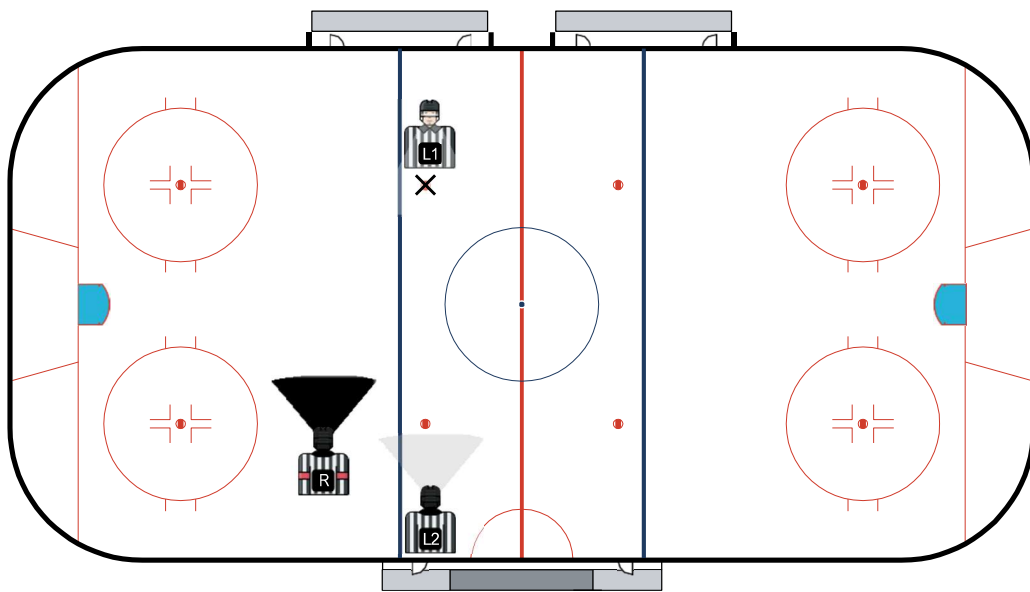
FIGURE 17



3人制システム ラインズパーソン

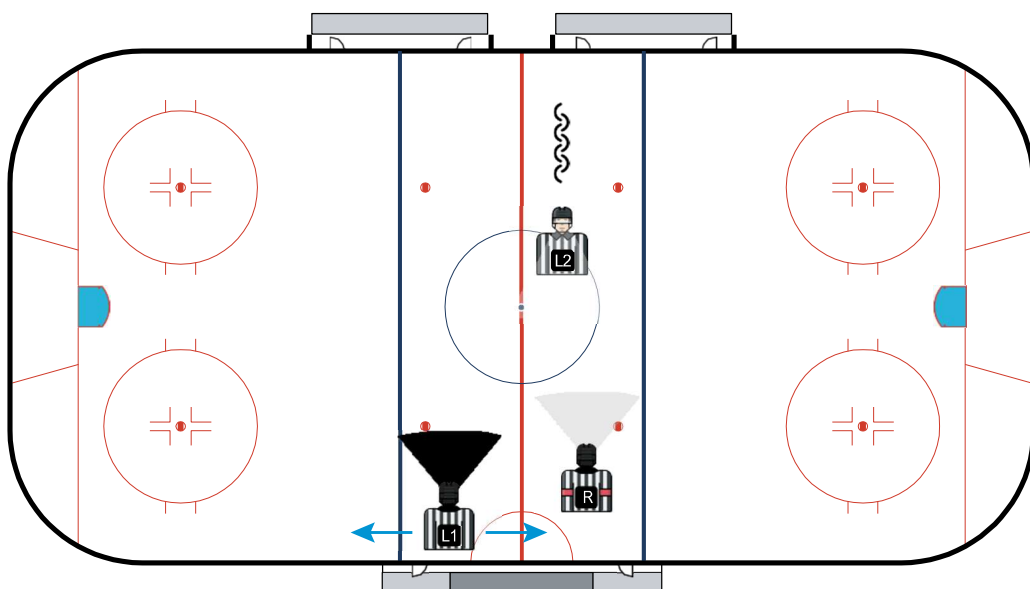
ニュートラルゾーンのフェイスオフスポットでのフェイスオフでは、L1が常にブルーラインとレッドラインの間のバックラインズパーソンとしての位置を占めているため、L2は常にプレイに従って攻撃側のブルーラインをカバーしなければならない(Figure 18)

FIGURE 18



フェイスオフを行うラインズパーソンは、パックがドロップされたときにタイムキーパーが時計をスタートできるように、スコアキーパーズベンチを向いていなければならない。L1が氷の中央に閉じ込められた場合に備え、L2がスコアキーパーズベンチ側に位置し、すべてのラインを担当する。(Figure 19)

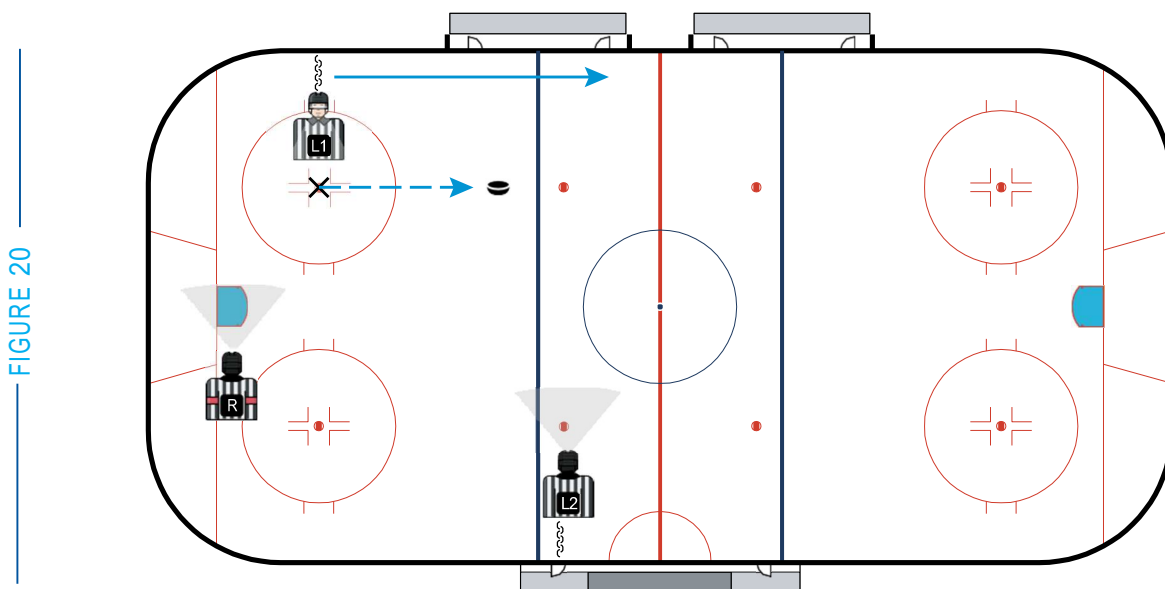
FIGURE 19



3人制システム ラインズパーソン

フェイスオフがエンド・フェイスオフ・スポットで行われる場合、L2は氷の反対側のブルーラインの1歩外側に位置すべきである。フェイスオフを行うL1の後方に位置するプレーヤーがレフェリーから見えない場合、L2はボードから適切な距離だけ離れ、明確な視界を得ることができる。

プレーヤーが侵入している場合、L2は笛を吹き、フェイスオフ・バイオレーションを行ったチーム側で、手のひらを開いて肘を曲げ腕を上げる。パックがドロップされたら、L2はサイドボードに戻り、ブルーラインの一步外側に位置する。L2はそこにとどまり、L1は中央のレッドラインとブルーラインの中間に移動する。(Figure 20)



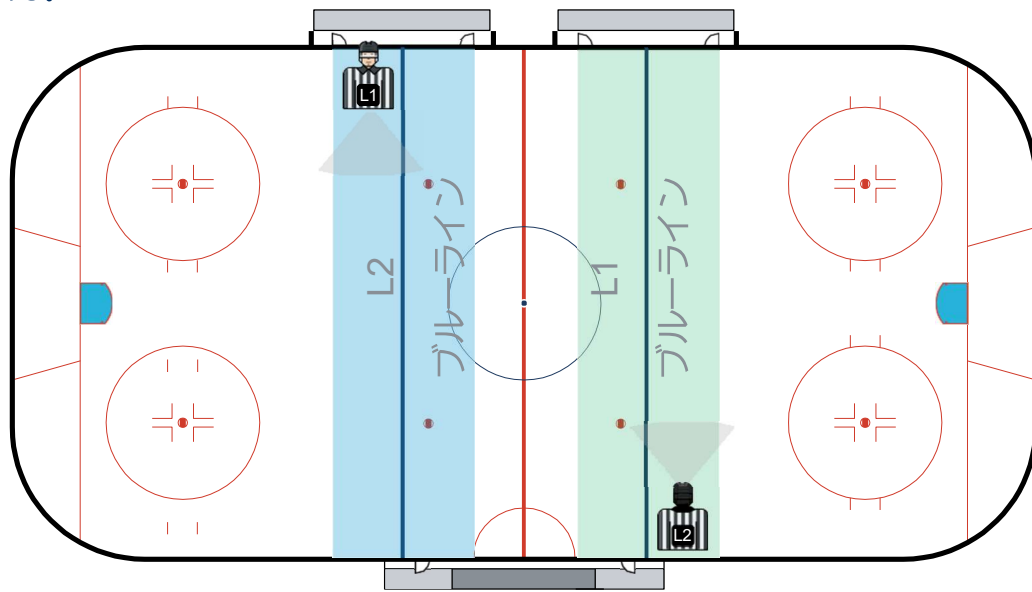
両ラインズパーソンはチームとして働き、常に何が起きているのか、もう一人のラインズパーソンがどこにいるのかを把握していなければならない。常に警戒を怠らず、万が一ラインズパーソンの一人が倒れたり、プレーから外れたりした場合には、お互いのラインをカバーし合えるようにしておかなければならない。ラインズパーソンは、レフェリーが倒れたり、プレーからはみ出した場合、または、プレーが方向転換してレフェリーが体勢を崩した場合に、レフェリーをカバーできるように常に準備しておかなければならない。このような場合、ラインズパーソンはエンドゾーンに入り、レフェリーがポジションに戻るまで「エンドゾーンのポジショニング」を行わなければならないかもしれない。レフェリーとともにチームとして働き、ホッケーゲームを完全にコントロールしなければならない。

3人制システム ラインズパーソン

3.3. 指定のブルーライン

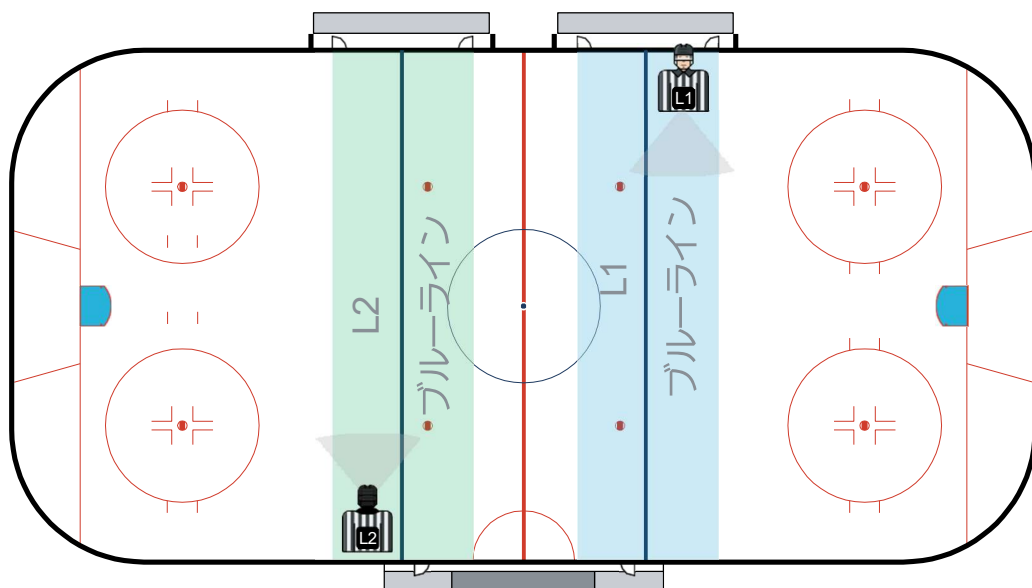
オフサイドの状況判断の一貫性を確保するため、ラインズパーソンは、指定されたブルーラインでの判断の大部分を担当する。この指定されたブルーラインは、2.5に記載されているように、フェイスオフのためにあらかじめ選択されたサイドに従うべきである。

FIGURE 21



ラインズパーソンは、試合の前半は指定されたブルーラインに集中し、試合の途中でその裁量で指定されたブルーラインを変更する。

FIGURE 22



3人制システム ラインズパーソン

青線が指定されているからといって、ラインズパーソンがパートナーと交代したり、パートナーがプレーに対して悪い位置や角度になった場合にカバーしたりすることができないというわけではないことに注意することが重要である。目標は常にチームワークを生かし、試合全体を通じて最善の決断を下すことだ。ラインズパーソンがブルーラインを交代した場合、ブルーラインはそのラインズパーソンの責任下に置かれ、前述した構造に従ってブルーラインの責任を戻すことが適切となるまで、そのラインズパーソンの責任下に置かれるべきである。

エンドゾーンでのフェイスオフの際、ラインズパーソンは、ブルーラインを確実にカバーし続けるために、コミュニケーションを優先しなければならない。後方のラインズパーソンは、フェイスオフを行うラインズパーソンのブルーラインの責任を引き継ぐ。彼らは、プレーによってラインズパーソンが交代できるようになるまで、あるいは、ターンオーバーやファストブレイクアウトが発生し、後方のラインズパーソンが指定されたブルーラインをカバーする必要性が生じるまで、ブルーラインに留まらなければならない。

センターアイスでのフェイスオフでは、ラインズパーソンがゲーム感覚を駆使して、必要なときに適切なブルーラインをカバーできるようにすることが重要である。フェイスオフを行っていないラインズパーソンは、たとえ他のラインズパーソンのブルーラインの責任を引き継ぐことになって、再び責任を引き継ぐことができるまでの短い時間、オフサイドの可能性のある状況がカバーされていることを確認するためにプレーに従うべきである。

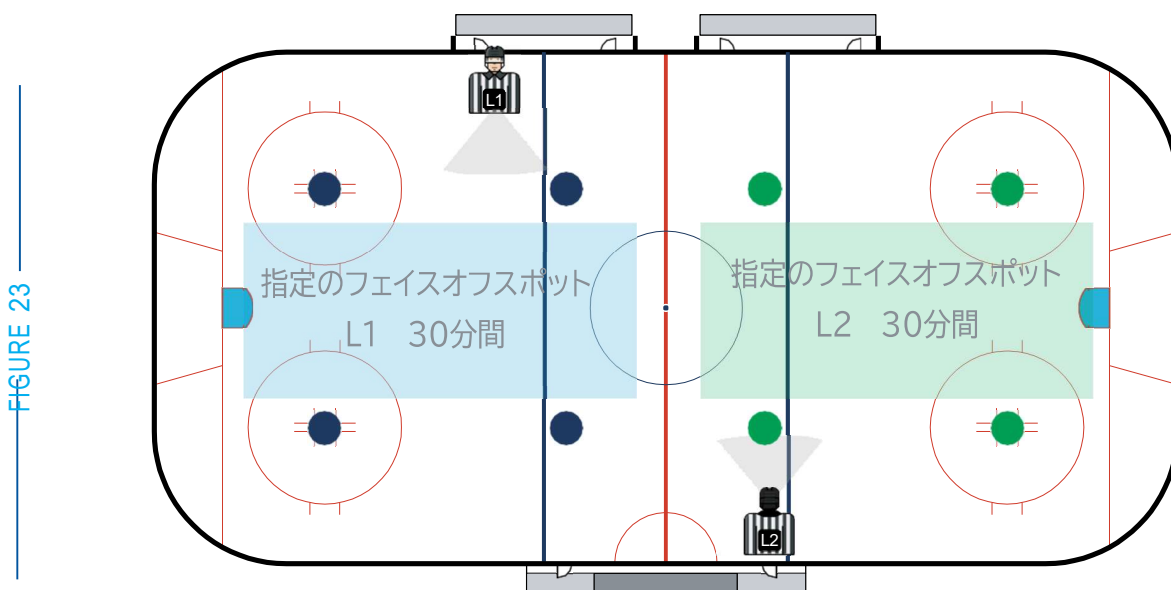
試合開始前に、両ラインズパーソンは、試合の前半にどちらのブルーラインを重点的に担当するかを決めなければならない。ラインズパーソンは、試合の中間点でブルーラインの責任を交代する前に、口頭または視覚的な合図、あるいはその両方を用いて、互いに明確に意思の疎通を図らなければならない。



3人制システム ラインズパーソン

3.4. 指定のフェイスオフ・スポット

試合中、各ラインズパーソンは氷面でフェイスオフを担当するエリアを指定される。このフェイスオフの責任分担は、2.4で示された指定ブルーラインと一致している。各ラインズパーソンは氷面の半分を担当し、試合中はその半分でフェイスオフを行う。ラインズパーソンは、指定されたブルーラインの手順に従って、試合の途中でフェイスオフの場所を交代する。



ゲームの流れを良くするために、ラインズパーソンがパックを持ち、その場所の指定されたラインズパーソンよりもフェイスオフスポットに近いという状況があり得ることに注意することが重要である。その後、ラインズパーソンは試合のペースを優先し、フェイスオフを行い、本項に記載された手順に戻るべきである。

3.5. パックを渡す

アイシングコールの後、ラインズパーソンがフェイスオフを行う場合、選手交代の手順が正しく行われていることを確認し、エンドゾーンでフェイスオフの手順を進めることは、後方のラインズパーソンの責任である。フロントラインズパーソンは、ゲームが中断された後、パックを拾い上げ、積極的にアイシングをしていないチームが選択したフェイスオフスポットまでスケータリングし、氷面の半分でフェイスオフを担当するラインズパーソンにパックを渡すラインズパーソンは、積極的なフォアスケータリングでブルーラインまで進み、ニュートラルゾーンでフェイスオフの手順を監督する。

THREE OFFICIALS SYSTEM

スクラム／試合中の手順

4 スクラム／試合中の手順

4.1. レフェリーの責任

レフェリーは、スクラムや争いに巻き込まれたプレーヤーに、いかなる時も肉体的に関与してはならない。レフェリーは、スクラム/ファイトの直接のエリアから離れた位置につくべきであるが、適切な罰則を評価し、関係するプレーヤーと意思疎通を図るために、声や笛を使うことができるように、状況をよく見渡せるような位置につくべきである。

エンドゾーンの状況では、レフェリーはエンドゾーンにいる「ポイントプレーヤー」を積極的にコントロールし、彼らがスクラムの方へ下ったり、フェイスオフサークルの輪郭の上を移動しているかどうかを確認することも重要である。スクラムが氷上のどこで起こったかにかかわらず、氷上に飛び出し、闘いやスクラムに参加する選手がいた場合に備えて、レフェリーが注目するのはベンチでもある。

レフェリーは、スクラムに参加するプレーヤーの背番号を記憶し、記録することに積極的に取り組まなければならない。ゴールキーパーがこの状況に巻き込まれ、氷上の選手がペナルティを受けなければならない場合、あるいはベンチから入ってきた選手が口論になった場合にも、これは重要な意味を持つ。

4.2. ラインズパーソンの責任

ラインズパーソンは、状況を和らげようと積極的に行動し、必要であれば、関係するプレーヤーを物理的に中断させるべきである。ラインズパーソンは、ケンカやスクラムを仲裁しようとする場合、どのような状況でも常に2人1組で協力するように努めるべきである。良好なコミュニケーションが鍵だ。

ラインズパーソンが状況に入る適切なタイミングを監視する場合、ラインズパーソンの安全を第一に考えることが非常に重要であり、決しておろそかにしてはならない。レフェリーは、争いを仲裁する際、ラインズパーソンを危険にさらすプレーヤーに適切な罰則を科し、ラインズパーソンをサポートしなければならない。

4.3. よくある不具合とヒント

スクラムやケンカが起こったときに考慮すべき最も重要な要素は、口論に巻き込まれたプレーヤーを最小限に抑えることである。オフィシャルは、他のプレーヤーが参加しないように積極的に働きかけ、口頭で、必要なときにコミュニケーションをとらなければならない。ラインズパーソンは、事態の深刻さを最小限に抑えるために、安全な場合には物理的に介入すべきである。

3人制システム

ペナルティシュート時の手順

5 手順と責任

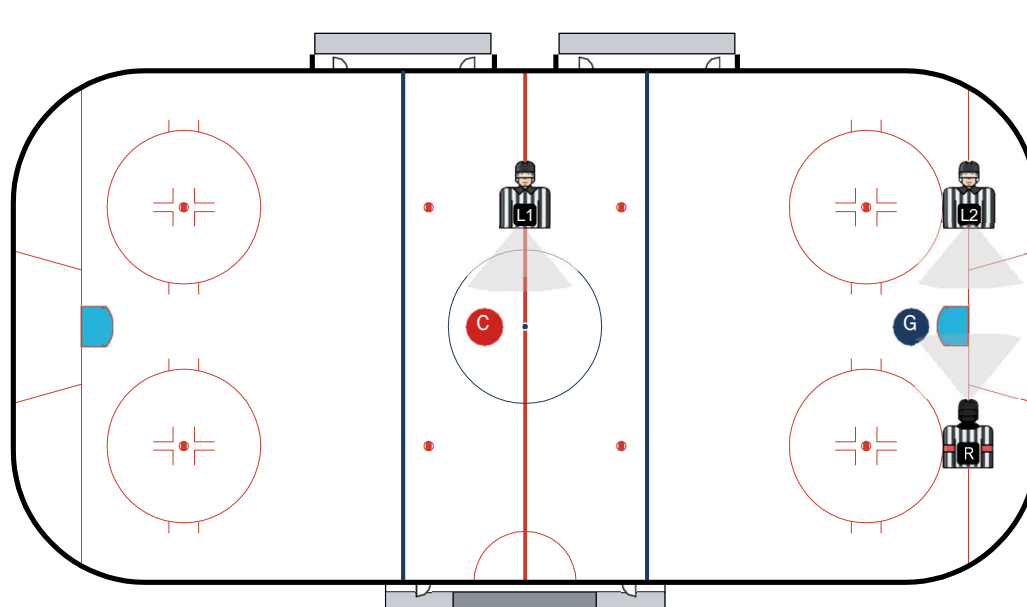
5.1. 一般的な手順

レフェリーは、スコアキーパーベンチと同じ側のネットに位置する。L2はネットの反対側に位置し、ペナルティショットのレフェリーをサポートする。もう一人のラインズパーソンL1は、センターアイスのスポットにパックを置き、ショットの参加者全員の準備が整い、すべてのゲームオフィシャルが所定の位置につき、残りのプレーヤーが氷を離れるまで、パックの上に立つ。ペナルティショットの準備ができたなら、L1はニュートラルゾーンのベンチの間に位置する。レフェリーは、全員がペナルティショットに備え、L1がセンターアイスから移動したことを確認しなければならない。ペナルティショットは、レフェリーの笛の合図で開始される。レフェリーの主な仕事は、シューターを監視すること、ゴールキーパーを監視すること、そしてパックの横切りを監視することである。

レフェリーのみがゴール(パックがネットに入ったこと)を合図するか、ゴールが決まらなければウォッシュアウトを合図する。ラインズパーソンは、ホイッスルをポケットに入れておくこと。

レフェリーは、不明瞭な状況においてはラインズパーソンを巻き込むべきであるが、最終的な判断は常にレフェリーによって下される。シュートが決まったら、L1がプレーヤーをコントロールし、L2がパックを取る。ゲームウィニングショットの手順では、両ラインズパーソンは、L1とL2を交互に担当する。(Figure 24)

FIGURE 24



ご意見・ご感想をお待ちしております。

For any comments email: officiating@iihfoffice.com

INTERNATIONAL ICE HOCKEY FEDERATION

Brandschenkestrasse 50, PO-Box

8027 Zurich, Switzerland

Phone +41 44 562 22 00

E-mail office@iihf.com

www.IIHF.com